

生田緑地の昆虫 (チョウ類・トンボ類)

西田 考治*1・岩田 芳美*1・高橋小百合*2・昆虫班*1

Butterflies and Dragonflies in Ikuta-Ryokuchi Park, Kawasaki City

Koji NISHIDA*1・Yoshimi IWATA*1・Sayuri TAKAHASHI*2・Insects Researcher Group*1

I はじめに

川崎市多摩区生田緑地のトンボ類・チョウ類については、林・小林 (1991) に報告されている。林・小林 (1991) は調査を 1988 年～1990 年に行い、過去の記録も整理した。また、増淵 (1995) にもチョウ類の報告がなされている。

川崎市民自然環境調査団昆虫班は 1995 年から調査地を生田緑地 (公園事業認可区域 52 ha) に限定し、緑地内の昆虫相を把握するため、主に体長 5mm 以上の昆虫を対象に昆虫調査を行っている。今回の調査のなかで、林・小林 (1991)、増淵 (1995) に記載されていない種の確認をすることができたので、チョウ類とトンボ類についてここに報告する。

II 調査方法

1995 年 4 月から 1997 年 10 月まで。基本的に週 1 回生田緑地を歩き、成虫、蛹、幼虫、卵を対象に調査し、採集を行い、標本を作成した。

なお同定は西田、安永、高橋 淳が行った。

III チョウ目

今回の調査で確認のできたチョウは 7 科 51 種である。林・小林 (1991) に未確認のミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、クロコノマチチョウが確認された (表 1)。

クロコノマチチョウは南方系のチョウで分布の北上を続けている。生田緑地の林縁に見られるススキで繁殖をしているようである。

また 1971 年 (渋谷, 1972) 以降の確認がなかったアオバセセリは 1996、1997 年と続けて確認がされた。これは同じく 1972 年 (渋谷, 1972) 以来のチャバネセセリの確認と共に貴重な発見と言える。

一方で生田緑地を基準産地とするウラナミアカシジミの確認ができなかった。林・小林 (1991) に確認されたチョウではコツバメ (1990 年)、スミナガシ (1990 年)、ツマグロキチョウ (1988 年) の確認ができなかった。

IV トンボ目

今回の調査で確認のできたトンボは 8 科 26 種である。林・小林 (1991) に未確認のリスアカネ、コノシメトンボ、ミヤマカワトンボ、ヒガシカワトンボ、ホソミオツネトンボ、オオヤマトンボの確認がされた (表 2)。特にオオヤマトンボ (脱皮殻採集) は繁殖の確認がされた。ミヤマカワトンボは緑地内の湿地で確認された。

また 1969 年以降のクロイトトンボ、1969 年以降のハグロトンボとネキトンボ、1967 年以降のヤブヤンマやコシアキトンボの確認がされた (過去のデータは林・小林, 1991 による)。

林・小林 (1991) が 1988～1990 年に確認したヒメアカネ (1988 年)、ミヤマアカネ (1990 年)、マユタテアカネ (1990 年)、チョウトンボ (1988 年)、ヤマサナエ (1989 年) の確認ができなかった。

V 終わりに

クヌギやコナラなどの代償植生地や、ハンノキ林などの自然植生を持つ生田緑地は湧水も豊富である。そのため幼虫期を水生昆虫として過ごすトンボ類も多く確認されているが、近年の水辺環境の悪化によるトンボ類の減少が心配される。また、チョウ類に関しては、ミドリシジミは 1997 年に卵の確認のみ、オオミドリシジミは 1995 年以降確認されなかったが 1997 年に卵を確認、アカシジミに関しては 1995 年を最後に卵の確認もなく、この 3 年間で著しく減少し生田緑地からの絶滅が心配される。

なお、増淵 (1995) において 1990 年以降に確認され、今後の出現に注意を促した 5 種のチョウで今回も確認されたのはテングチョウとルリタテハである。

また 1982 年以降、緑地で見られなくなったとあるゴイシシジミ、ツバメシジミの生息は確認できた。

表1 チョウ目

科名	種名	学名	採集年月日
タテハチョウ科 Nymphalidae	ミドリヒョウモン メスグロヒョウモン	<i>Argynnis paphia tsushimaana</i> (FRUHSTORFER) <i>Damora sagana liane</i> (FRUHSTORFER)	♂950728 ♀960919 ♀950616
ジャノメチョウ科 Satyridae	クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i> MATSUMURA	960925 (目撃確認)

表2 トンボ目

科名	種名	学名	採集年月日
アオイトトンボ科 <i>Lestidae Tillyard</i>	ホソミオツネトンボ	<i>Indolestes Peregrinus</i> (Ris)	961107
カワトンボ科 <i>Calopterygidae Buchecker</i>	ミヤマカワトンボ ヒガシカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i> SELYS <i>Mnais pruinosa costalis</i> SELYS	♂950804 ♂950611
サナエトンボ科 <i>Gomphidae Banks</i>	種名不詳1種		950722
エゾトンボ科 <i>Corduliidae Karsch</i>	オオヤマトンボ	<i>Epophthalmia elegans</i> (BRAUER)	970717 抜殻確認
トンボ科 <i>Libellulidae Stephens</i>	リスアカネ コノシメトンボ	<i>Sympetrum risi risi</i> BARTENEFF <i>Sympetrum baccha matutinum</i> Ris	♂961017 ♂960801 950921

(注) 採集年月日 950718 は 1995 年 7 月 18 日を表す



図1 コナラの葉にとまるオオミドリシジミ♂
1997. 6. 2



図2 ホテイアオイで産卵するギンヤンマ♂♀
1997. 9. 2

謝 辞

前川崎市青少年科学館職員木下あけみ氏に感謝を致します。今回確認されたチョウ類・トンボ類は週1回の地道な活動を企画した氏の成果と言えるものである。

文 献

- ・林長閑・小林正人 (1991) 川崎市のトンボ類・チョウ類. 川崎市自然環境調査報告Ⅱ. pp.95-116. (川崎市教育委員会).
- ・猪又敏男 (1990) 原色蝶類検索図鑑 (北隆館).
- ・石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉浦光俊 (1988) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. (東海大学出版会).
- ・増渕和夫 (1995) 生田緑地とその周辺の蝶相変化. 川崎市青少年科学館紀要(6):69-76. (川崎市教育委員会).
- ・渋谷 誠 (1972) 川崎の蝶—川崎北部のチョウ1972年の記録一. 相模蝶報(13):40 pp.
- ・白水 隆監修 (1981) 原色日本昆虫生態図鑑・チョウ編 (保育社).

昆虫班：荒金泰子・岩片紀美子・河野浩道・佐野悦子・高橋 淳・竹村泰典・中山 敬・成田和子・伴 満・平中晴朗・藤沢寿美子・安永一正